

## 外国客の水難事故最多（令和6年10月末の発生状況）

～ 発生件数及び死者数が前年より大幅な増加となった。（暫定値）

第十一管区海上保安本部（以下「11管」という）の発表によると県内でマリレジャーに伴う外国人観光客の水難事故の被害が24人となり、統計を取り始めた2001年以降過去最多であった。

11管によると、県内に入域する観光客が増えたことが要因にあると分析している。

マリレジャー事業者は「自分の体力を過信し、短期間の旅行中に多少無理をしてでも海に入ってしまった」「ライフジャケットを着用せず、スノーケリングや遊泳をする観光客が多い」ことも問題と話す。

県と県警は、外国人の事故の増加を受けて中国語や韓国語、英語などの4カ国語で注意喚起の音源を作成して広報活動を実施。

11管では、機内アナウンスやホテル、レンタカーなどでライフジャケットの着用を呼びかけている。

OMS Bも関係機関と連携し、OMS B作成のパンフレットや安全ガイドブックなどを配布し事故防止を呼びかけている。



外国人観光客の水難事故最多  
10月24日 死亡・不明は10人

県警によると、10月24日、県内各地で外国人観光客の水難事故が相次ぎ、死者や行方不明者が10人発生した。これは、2001年以降過去最多の被害者数となった。また、死亡・不明者は10人に達した。

11管によると、県内に入域する観光客が増えたことが要因にあると分析している。マリレジャー事業者は「自分の体力を過信し、短期間の旅行中に多少無理をしてでも海に入ってしまった」「ライフジャケットを着用せず、スノーケリングや遊泳をする観光客が多い」ことも問題と話す。

県と県警は、外国人の事故の増加を受けて中国語や韓国語、英語などの4カ国語で注意喚起の音源を作成して広報活動を実施。11管では、機内アナウンスやホテル、レンタカーなどでライフジャケットの着用を呼びかけている。

OMS Bも関係機関と連携し、OMS B作成のパンフレットや安全ガイドブックなどを配布し事故防止を呼びかけている。

11/5(火)付 沖縄タイムス

## 沖縄県水上安全条例が改正される予定があります。

1 沖縄県警・沖縄県公安委員会は、現在、沖縄県水上安全条例の改正に向けての準備を行っています。

改正の理由として、県内の水難事故の発生が増加傾向にある中、入域観光客の増加に伴うマリレジャーに講じる人の増加、それに伴うマリレジャーアクティビティの多様化・活発化により更なる水難事故防止対策を図ることが求められています。

※ 改正の柱

- (1) 事業届出の一元化（複数事業の届出を個別の届出から一括した届出とする）
- (2) 新アクティビティの規定（水上設置遊具の水上アスレチックを届出制とする）
- (3) 船舶の無人化禁止の規定（潜水者を案内する際、当該船舶を無人化にしない）
- (4) マリレジャー業種の整理（プレジャーボート業を動力・非動力に分類する）

※ 改正施行時期は未定。改正の柱についても今後、若干の変更もある。

マリレジャー事業者は [マル優マーク] を目印に選びましょう →

※ マル優事業者は安全対策基準をクリアした事業者だけが指定されています。

